

フィリピン・レイテ島で減災出前授業を行いました（2014/8/27-29）

テーマ：減災出前授業，2013年ハイエン台風
 場所：フィリピン・レイテ島

2014年8月で、フィリピンにおいて甚大な被害を与えた2013年ハイエン台風来襲から9か月が経ちました。レイテ島の被災地では復興が少しずつ進んではいますが、次の台風が襲ってくる前に住民が災害に備える意識を持ち、安全に避難出来るように、正しい台風・高潮についてのメカニズムや避難方法を知っておく必要があります。

災害科学国際研究所は今まで国内の学校で防災出前授業を行ってききましたが、その実績を活かして今年は海外での減災出前授業を実施しており、米国のハワイ（1月）とタイのプーケット（6月）で実施しました。そこで、2014年8月27日から29日まで、2013年ハイエン台風の際に壊滅的に被害を受けたタクロバン市、パロ町、タンアワン町で合計約280名の生徒に減災出前授業を行いました。授業は、サッパシー・アナワット准教授（寄附研究部門）、イ・ケリオン助教（地域・都市再生研究部門）、野内類助教（人間・社会対応研究部門）、保田真理助手（災害リスク研究部門）、リーラワット・ナット氏（東京工業大学博士課程学生）が担当しました。授業の内容は、自然災害発生のメカニズムと自分の命を守る講義の他に、災害認知クイズ、ハザードマップを活用したDIG、避難訓練の順番で行いました。すべてのプログラムを通して、現地フィリピン大学タクロバン校の学生やOGが通訳として協力をしてくれました。市や町からも担当者が参加し、今回の活動を通じて、日本とフィリピンの絆も一層強くなったと感じています。

【授業実施校】

- San Joaquin 小学校（パロ町）
- Bislig 小学校（タンアワン町）（海の近くに丘があるが、高台へのアクセスがなかった）
- Bacagay 小学校（タクロバン市）
- Cabuyan 小学校（タンアワン町）



講義風景



災害認知クイズ風景



避難訓練風景



集合写真

文責：保田真理（災害リスク研究部門）
 野内類（人間・社会対応研究部門）
 サッパシー・アナワット（寄附研究部門）